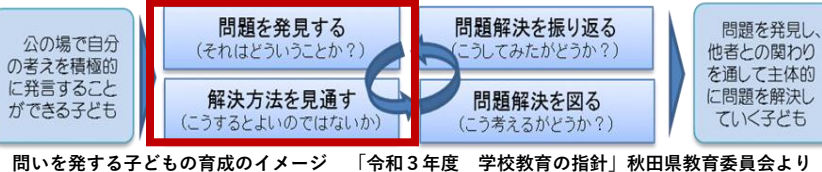


今号では、社会科の授業を取り上げます。資料を提示して、問いを引き出し、予想を複数の資料で確かめながら、問題の解決を図る授業の導入の工夫を紹介します。



## 単元の概要 第2学年「関東地方」全5時間

時	主な学習活動	時	主な学習活動
1	・資料を基に、自然環境における特色や課題を見いだす。	4	関東地方の産業について、臨海部と内陸部、都心と郊外という関係に着目して、生産や物流の変化を多面的・多角的に考察し、交通網の整備や広がりとの関わりを表現することができる。
2	・資料を基に、人口や産業における特色や課題を見いだす。 ・既習事項と関連付けて、単元テーマを設定する。	5	・他の地域との結び付きについて捉え、特色や課題について、図や文章を用いてまとめる。
3	・資料を基に、都市部と郊外の関係について、都市機能の分散や交通網の発達等と関連付け、多面的・多角的に考察する。 ・特色や課題に関する事象について的小テストを行う。		

## 本時の概要

- 導入**
- まず、資料①を見て気付いたことを発表する。
  - 生徒の発言を基に、本時の学習課題を設定する。
  - 既習事項を基に、課題に対する予想を立てる。

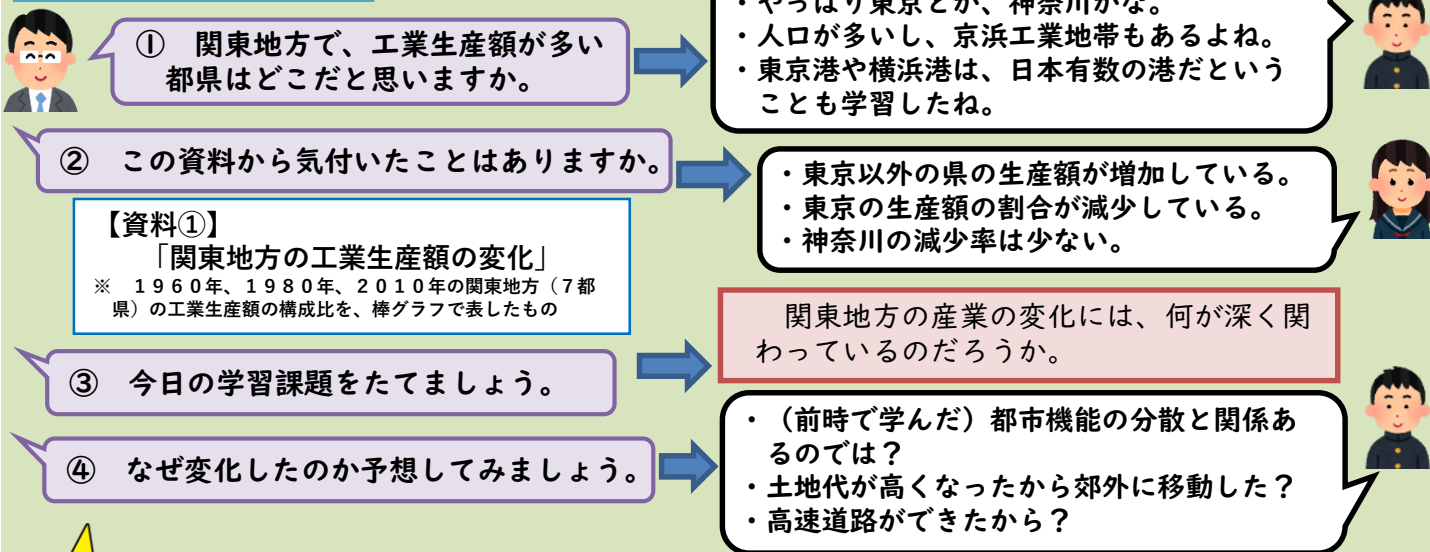
### 展開

- 工業に関する資料を読み取り、産業の変化の要因について考える。  
(資料) ・各工業の分布と品目の変化  
・道路を使った輸送の流れ  
・常陸那珂港の貨物取扱量 など
- 農業でも同様のことがいえるか考える。  
(資料) ・関東地方の主な野菜産地  
・首都圏中央連絡自動車道 など

### 終末

- 関東地方の産業の変化に関わる事柄について、キーワード【交通網、生産場所、輸送先】を基にまとめる。
- 本時の学習を振り返る。  
(視点) ・前時との比較  
・疑問点 など

## 導入部分の授業の流れ



資料提示前の発問で引き出した既有知識と、資料から読み取った情報にずれがあることに気付かせ、生徒が「問題を発見する」ことができるよう工夫しています。

## 萩原指導教諭のつぶやき

授業者は、「見方・考え方」と「既習事項(小学校の学びも含む)」、「提示資料」の三つを基にして、生徒の気付きや疑問を意図的に引き出し、学習課題につなげています。

予想する場面では、ノートを見直し、自分の考えをもつ時間をとっています。展開では、生徒同士で話し合いを進め、終末でキーワードを関連付けて考えをまとめます。主体的・対話的で深い学びが実現されていると感じました。



## 生徒の学び(振り返りの記述より)

前の時間は、東京に人やものが集まってくる理由や問題点を勉強したけど、今日の勉強で、交通網の整備によって、首都機能だけでなく、生産場所や輸送先が広がっていることが分かりました。秋田県も交通網が発達すれば、問題点が解決するのかなと疑問に思いました。